

道路事業

一般県道雀宮真岡線（上三川町・真岡市 宮岡橋）
（平成22年2月供用）

1 事業概要

一般県道雀宮真岡線は、宇都宮市雀宮地区と上三川町を結び県東部の真岡市へ至る幹線道路であり、真岡市工業団地の物流を支える道路・沿線地域の生活道路として重要な道路です。

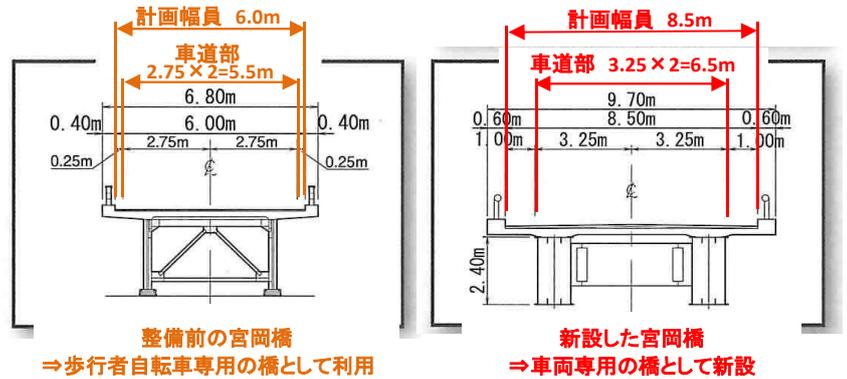
宮岡橋工区は、車両専用の橋梁を新設するとともに、整備前の宮岡橋は歩行者自転車専用の橋梁として利用し、橋梁前後の道路拡幅と併せて延長1,700mの整備を行うものです。

- ◆ 事業名：国庫補助道路改築事業・緊急地方道路整備事業
- ◆ 事業箇所：一般県道雀宮真岡線 宮岡橋工区（上三川町東汗～真岡市勝瓜）
- ◆ 事業主体：栃木県
- ◆ 全体延長：1,700m
- ◆ 総事業費：約37億円
- ◆ 計画幅員：新橋8.5m（車道6.5m）
旧橋6.0m（歩行者自転車道6.0m）
- ◆ 事業期間：平成14年度～平成23年度

位置図



横断面図(橋梁部)



平面図



2 事業の目的・必要性

宮岡橋は車道幅員が5.5mと狭く歩道も無いため、車両の円滑な通行に支障をきたすとともに、歩行者自転車にとって危険な状況となっていました。また、北関東自動車道の供用やインターパーク等の開発により交通量が増大したため、宮岡橋の整備が急務となっていました。

このため、栃木県では「歩行者・自転車利用者の安全確保」、「安全で円滑な交通の確保」、「宇都宮市と真岡市の交流促進」を目的とし、平成14年度から事業に着手し、平成22年2月に全線開通となりました。

3 事業の整備効果等

<費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化>

- ・事業費 着手時：約35億円 → 完成時：約37億円
 - ・事業期間 着手時：平成14～21年度 → 完成時：平成14～23年度
- ※関係機関との協議により、根固めブロック設置工事が追加となったため

<歩行者・自転車利用者の安全確保>

車両専用の新橋を建設し、橋前後の道路拡幅及び整備前の宮岡橋を歩行者自転車専用の橋とすることにより、歩行者自転車利用者の安全が確保され、自転車通行量も増加しました。



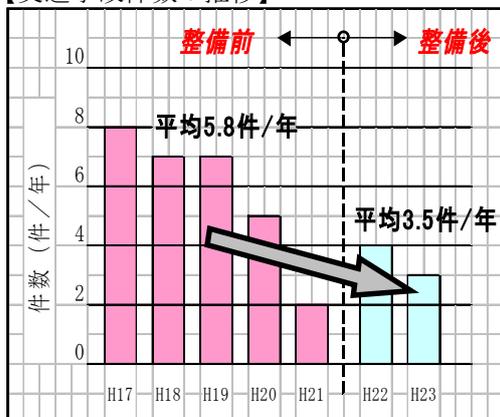
【自転車通行量の変化(平日 7時～19時)】

整備前(H13.12) 65台 → 整備後(H22.10) 170台 **2.6倍に増加**

<安全で円滑な交通の確保>

交通事故件数が減少し、宮岡橋工区の通過時間が約30秒短縮され、安全で円滑な交通が確保されました。

【交通事故件数の推移】



【宮岡橋工区 通過時間の変化(混雑時)
(下岡本上三川線交差点→408号交差点)】

整備前(H11.10) 5分29秒

整備後(H25.6) 4分57秒

約30秒の短縮

<宇都宮市と真岡市の交流促進>

自動車交通量は約16%増加し、宇都宮市と真岡市の交流促進に寄与しました。

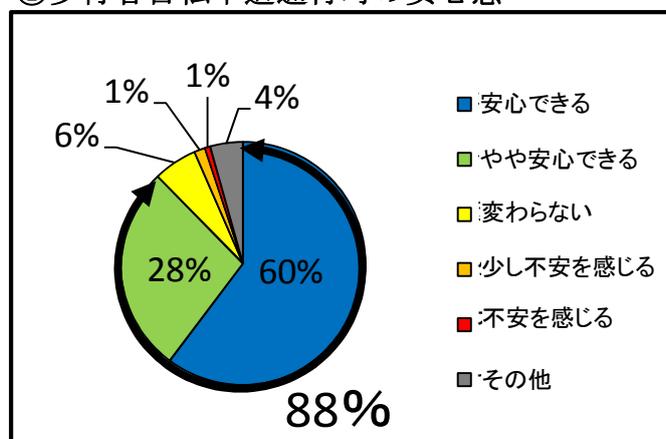
【自動車交通量の変化(平日 7～19時)】

整備前(H13.12) 13,338台 → 整備後(H25.6) 15,425台 **約16%の増加**

4 整備後のアンケート調査結果（地元の声）

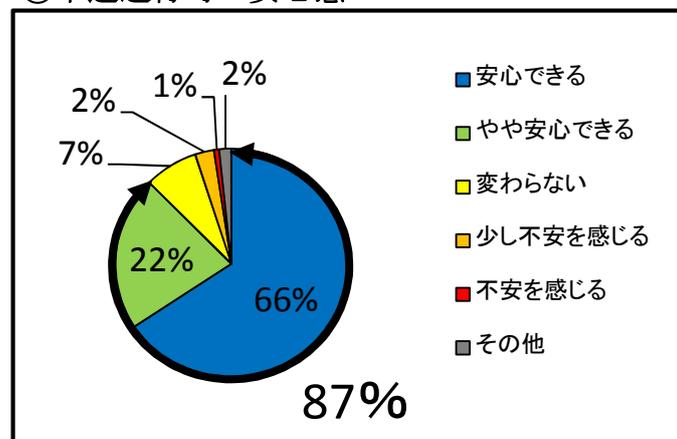
一般県道 雀宮真岡線（宮岡橋工区）の整備効果を検証するために、地域住民や企業の方々にアンケート調査を実施しました。（回答数415件／配布数564件：回答率74%）

①歩行者自転車道通行時の安心感



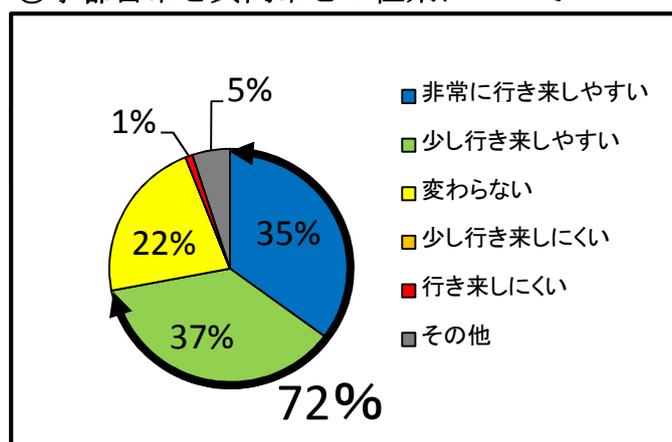
約9割の人が安心できると感じています。

②車道通行時の安心感



約9割の人が安心できると感じています。

③宇都宮市と真岡市との往来について



約7割の人が、行き来しやすいと感じています。

自由意見

- ・以前は道路巾も狭く、大型トラックとのすれ違いも不安がありました。現宮岡橋が開通してから、その不安は一切なくなりました。【20代 女性】
- ・自転車との事故がなくなり、幅も広がったことで、歩行者と自転車の事故もなくなったのではないのでしょうか。【20代未満 男性】
- ・二人の息子は真岡の高校に通学しておりましたので、自転車で車と接触したこともありました。今では両者共に安心安全で走行できると思います。【50代 女性】
- ・非常に安全に通行できるようになったと思います。自動車を気にしないで通行できる事がすごいです。【50代 男性】
- ・左右側に歩道があると更に良い、左から右側に渡る時に、又その逆に渡る時危険を感じます。【50代 男性】
- ・車の交通量が多いため農耕車や歩行者の横断が大変の為、ぜひ押しボタンの信号機を設置をお願いします。【50代 男性】
- ・ジョイフルホンダ東側の磯岡地区の歩道が途切れている部分あり。通学の学生達が狭い車道を通って事故に巻き込まれそうで怖い。【50代 女性】
- ・新宮岡橋を自転車や歩行して通行する人がいて危険です。【60歳以上 男性】

5 事業による環境変化

特になし

6 事業を巡る社会経済情勢の変化

特になし

7 今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性

車両専用の新橋を建設し歩行者自転車と分離することで、歩行者自転車利用者の安全を確保すると共に、交通の円滑化、及び宇都宮市と真岡市の交流促進を図ることができました。交通量調査及びアンケート調査結果においても、事業目的の達成を概ね確認できる内容であったことから、今後の事後調査の必要性はないと考えます。

一方、同じ雀宮真岡線の磯岡地区は歩道が一部未整備であり、アンケートでは多数の歩道設置要望がありました。雀宮真岡線として更なる整備効果を発現するためには、この区間の歩道整備を図っていく必要があります。

また、アンケート調査の結果、「車両専用の宮岡橋を歩行者・自転車が通行してしまう」という意見が複数ありました。宮岡橋工区の前後は両側歩道で整備されており、工区手前の横断歩道により片側歩道へ誘導しておりますが、交通量が多く横断困難な時間帯もあるため車道部を通行してしまうと推測されます。今後、歩行者自転車の利用状況について経過観察を行い、必要に応じ改善措置を検討して参ります。

8 同種事業への反映

「車両専用の宮岡橋を歩行者・自転車が通行してしまう」という事例があることから、今後同種事業の計画においても、歩行者自転車や自動車の交通量、道路の特性、及び沿道の利用状況等を考慮の上、歩道設置区間を適切に設定するとともに、両側歩道区間から片側歩道区間への誘導を要する場合には、確実な誘導ができるよう設計に十分配慮して参ります。

栃木県 県土整備部 道路整備課

T E L : 028-623-2410 FAX : 028-623-2417

H P : <http://www.pref.tochigi.lg.jp/h04/index.html>

E-mail : doro-seibi@pref.tochigi.lg.jp

